

巻頭言

「頭が下がる人間教育」ということ

仏教文化研究所所長

讓 西 賢

二〇一一年三月十一日、未曾有の災害といわれる大地震と大津波による東日本大震災が発生しました。犠牲となられた方々に哀悼の誠をささげ、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

一瞬にして人間の歴史ある文化を破壊した自然の猛威に、人間の顛倒した価値観を思い知らされました。地球は人間の所有物ではなく、地球に人間が住まわせてもらっているのです。目先の快適さと利便さばかりを追い求めた文化は、顛倒だったのです。

また、福島原子力発電所の放射線洩れ事故では、人間の頭が下がることのむずかしさを教えられました。世界のトップに君臨することばかりを追求すれば、自己の愚かさや失敗を認めることができなくなります。日本の教育において、「頭が下がる人間になれ」と教えることが、忘れられてしまっていたと指摘された気がします。もっと早く諸外国に頭が下がれば、放射線洩れの被害は、小さくて済んだのではないでしょう。蓮如上人の「参らせ心がわるき」のことが、我がこととして心に突き刺さります。

『仏教文化研究所紀要第十一号』をお届けします。今回は、二〇一〇年十月、当研究所開所十周年記念式典において「いのちのバトンタッチ―映画『おくりびと』によせて―」と題してご講演いただいた、青木新門先生の記念講演を特別に掲載いたしました。ご覧いただければ幸甚に存じます。

二〇一一年三月三十一日